

専門学科・総合学科の 現状について

令和2年5月21日

文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）

高等学校の学校数（学科別・令和元年度）

(校)

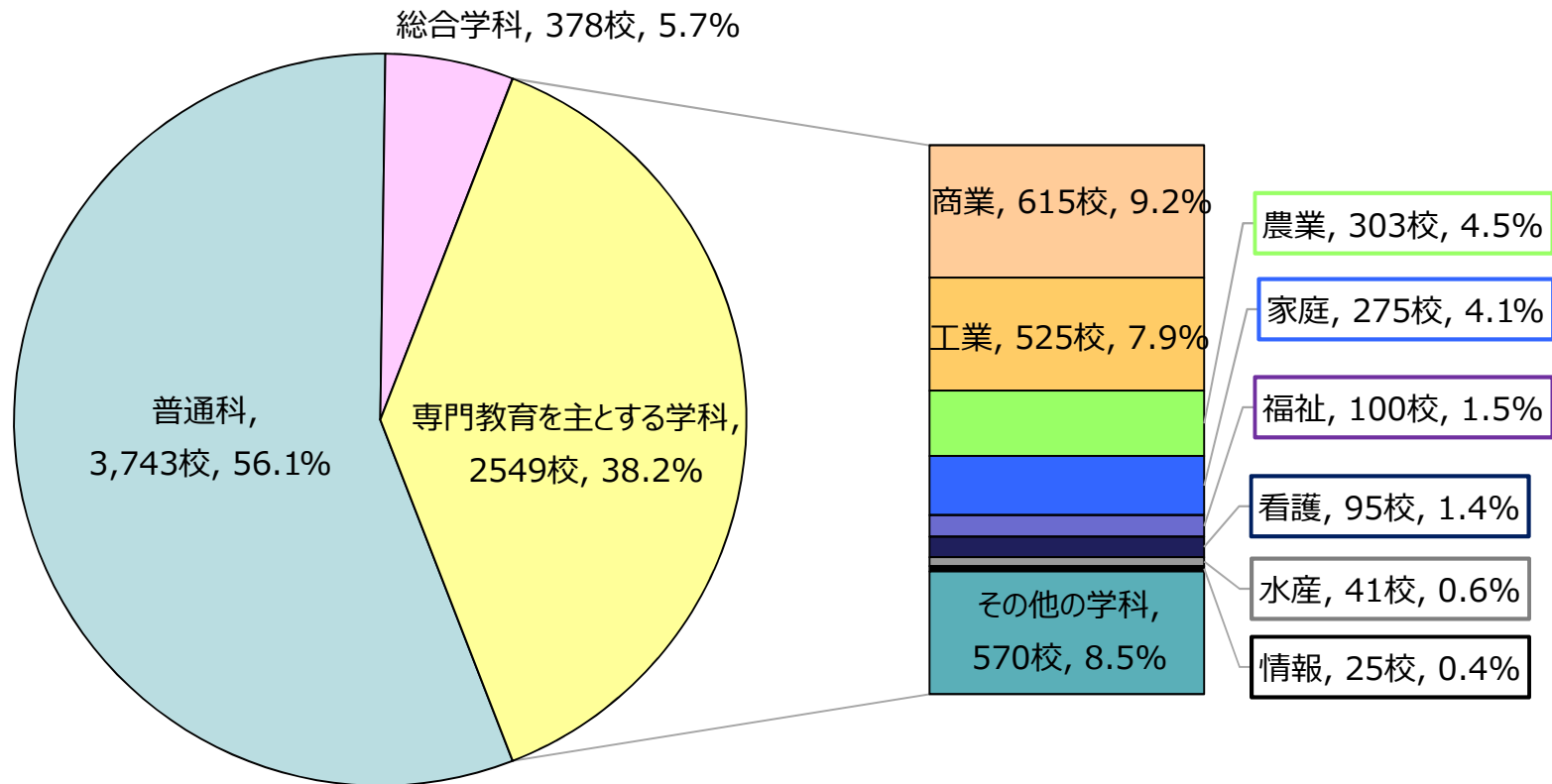
	国立 (全日制)	公立			私立			合計			割合				
		全日制	定時制	全定併設	全日制	定時制	全定併設	全日制	定時制	全定併設					
普通	11	2,034	164	260	2,458	1,255	3	16	1,274	3,300	167	276	3,743	56.1%	
専門教育を主とする学科	農業		279	12	9	300	3		3	282	12	9	303	4.5%	
	工業	1	330	15	90	435	87		2	418	15	92	525	7.9%	
	商業		397	29	38	464	146	3	2	151	543	32	40	615	9.2%
	水産		41			41				41				41	0.6%
	家庭		164	11		175	97	3		100	261	14		275	4.1%
	看護		29			29	63	2	1	66	92	2	1	95	1.4%
	情報		18	1		19	6			6	24	1		25	0.4%
	福祉		61			61	39			39	100			100	1.5%
	その他 (※)	1	442	2	1	445	124			124	567	2	1	570	8.5%
総合学科	2	313	30	9	352	22	2		24	337	32	9	378	5.7%	

※「その他」の学科は、専門教育を主とする学科のうち「農業」～「福祉」に関する学科以外の学科（理数、体育、音楽、美術、外国語、国際関係など）の合計

※一つの学校が2つ以上の学科を持つ場合は、それぞれの学科について、重複して計上。

(出典) 文部科学省 令和元年度「学校基本統計」

高等学校の学校数（学科別・構成割合）



※全日制・定時制課程を置く学校数の計。

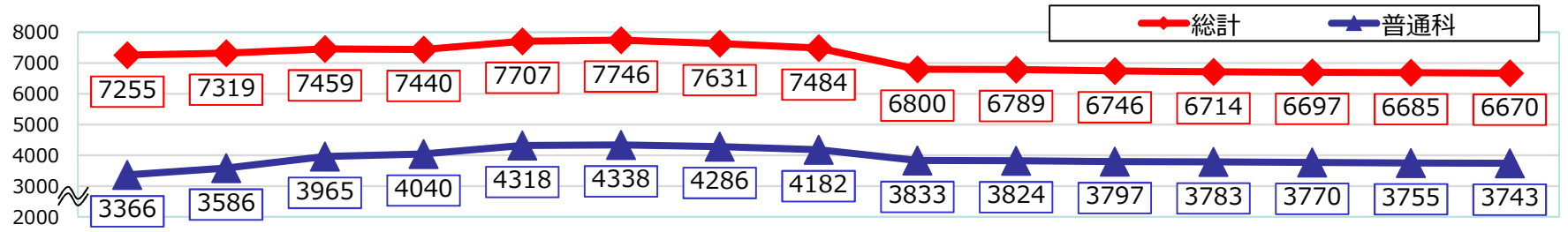
※一つの学校が2つ以上の学科を持つ場合は、それぞれの学科について、重複して計上。

※「その他」の学科は、専門教育を主とする学科のうち「農業」～「福祉」に関する学科以外の学科（理数、体育、音楽、美術、外国語、国際関係など）の合計。

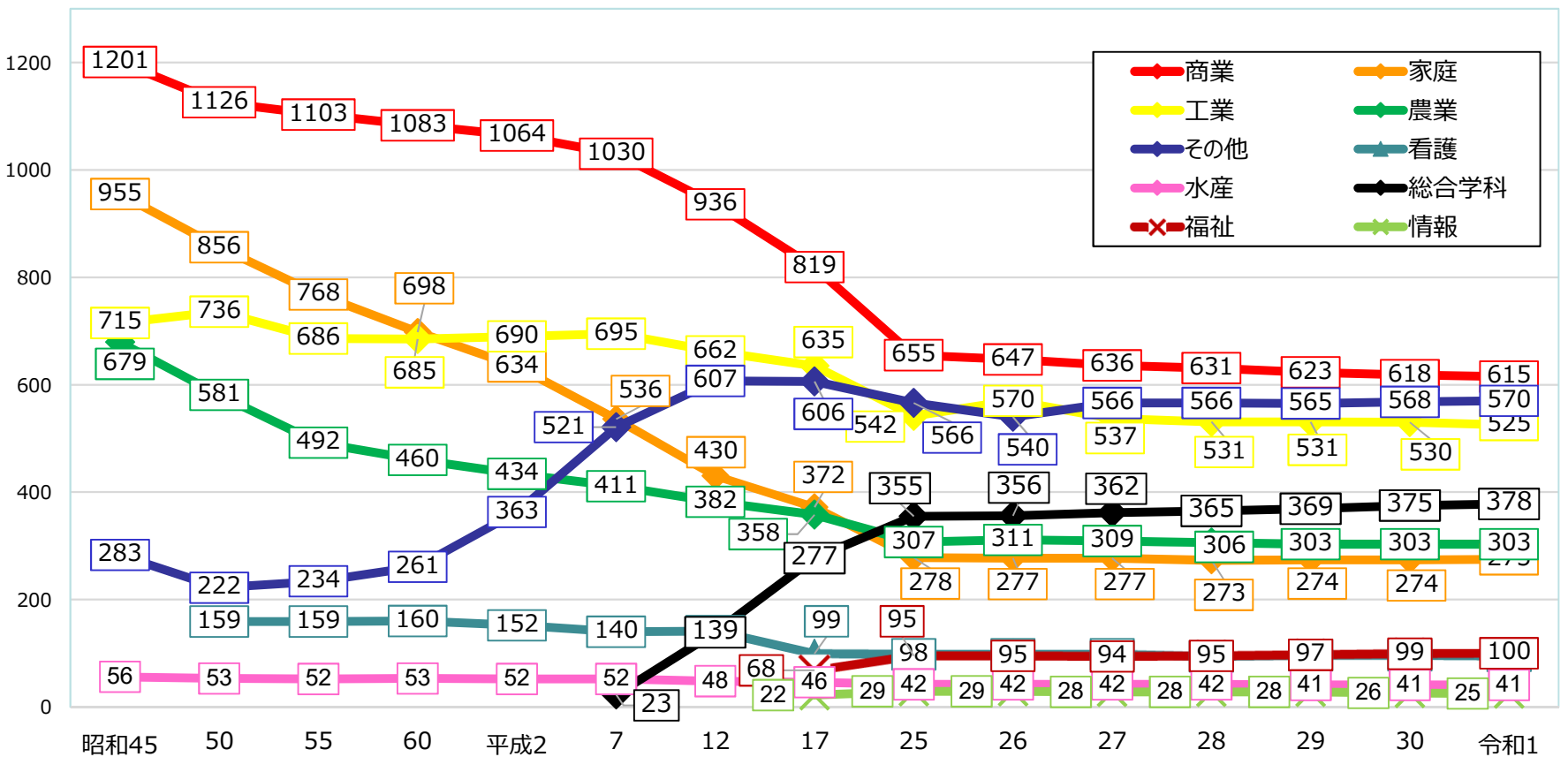
高等学校の学校数（学科別・推移）

（全日制・定時制課程）

総計・普通科



専門学科・総合学科



高等学校の生徒数（学科別）

(人)

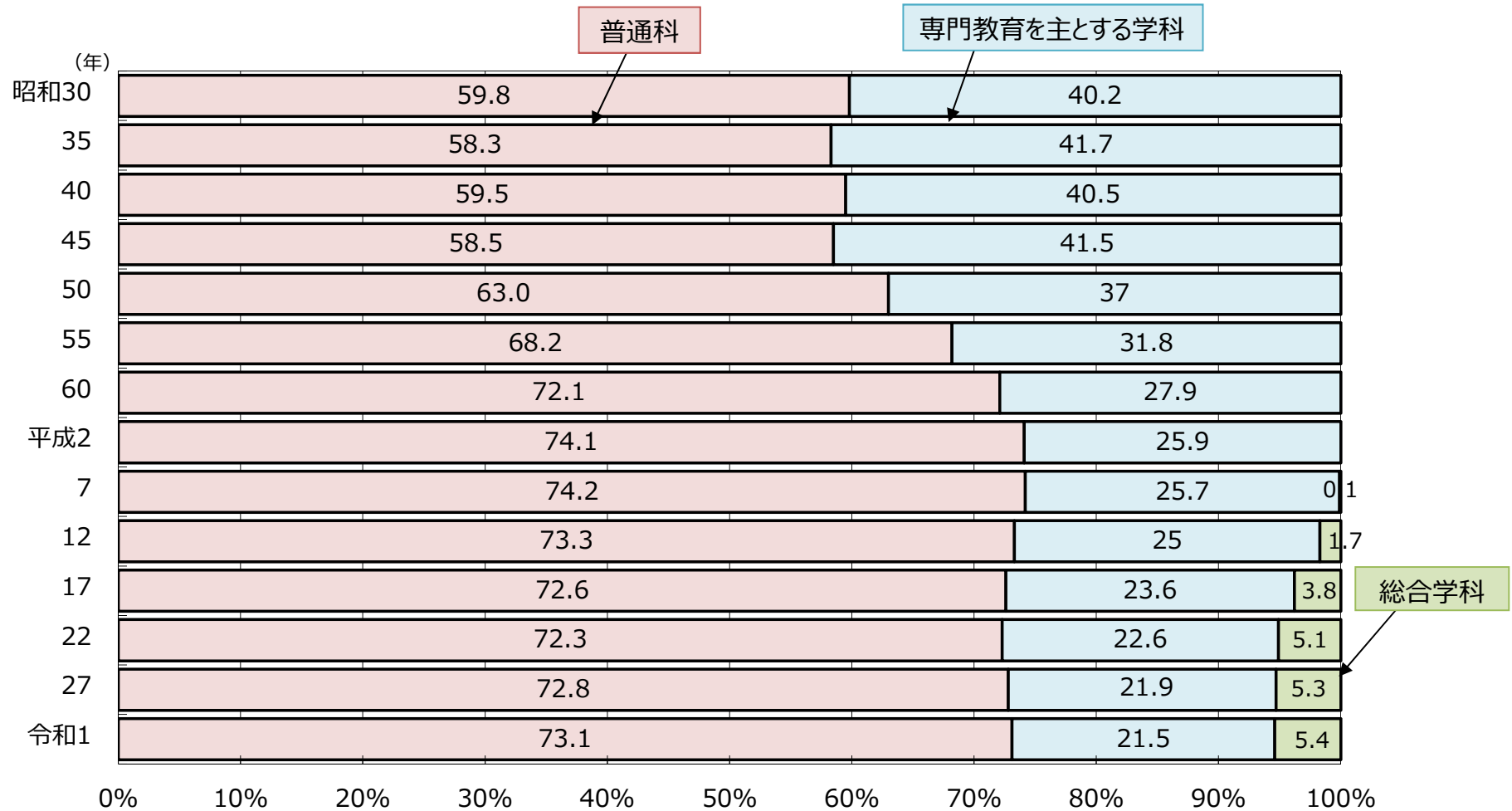
	国立 (全日制)	公立		私立			合計		割合			
		全日制	定時制	全日制	定時制	全日制	定時制					
普通	6,937	1,341,742	54,954	1,396,696	902,485	1,896	904,381	2,251,164	59,850	2,308,014	73.1%	
専門教育を主とする学科	農業		76,359	1,241	77,600	236	236	76,595	1,241	77,836	2.5%	
	工業	582	201,467	8,011	209,478	29,144	29,144	231,193	8,011	239,204	7.6%	
	商業		154,186	3,428	157,614	27,447	27,447	181,633	3,428	185,061	5.9%	
	水産		8,500		8,500			0	8,500		8,500	0.3%
	家庭		22,494	308	22,802	15,092	107	15,199	37,586	415	38,001	1.2%
	看護		3,504		3,504	10,004	170	10,174	13,508	170	13,678	0.4%
	情報		2,125	271	2,396	343		343	2,468	271	2,739	0.1%
	福祉		5,541		5,541	2,701		2,701	8,242		8,242	0.3%
	その他 (※)	121	84,627	463	85,090	21,078		21,078	105,826	463	106,289	3.4%
総合学科	836	149,207	10,439	159,646	10,498	472	10,970	160,541	10,911	171,452	5.4%	
総計	8,476	2,049,752	79,115	2,128,867	1,019,028	2,645	1,021,673	3,077,256	81,760	3,159,016	100%	

※「その他」の学科は、専門教育を主とする学科のうち「農業」～「福祉」に関する学科以外の学科（理数、体育、音楽、美術、外国語、国際関係など）の合計。

(出典) 文部科学省 令和元年度「学校基本統計」

高等学校の生徒数（学科別・構成割合）

- 専門教育を主とする学科の比率は年々減少。普通科は最近30年間、ほぼ一定（約7割）で推移。



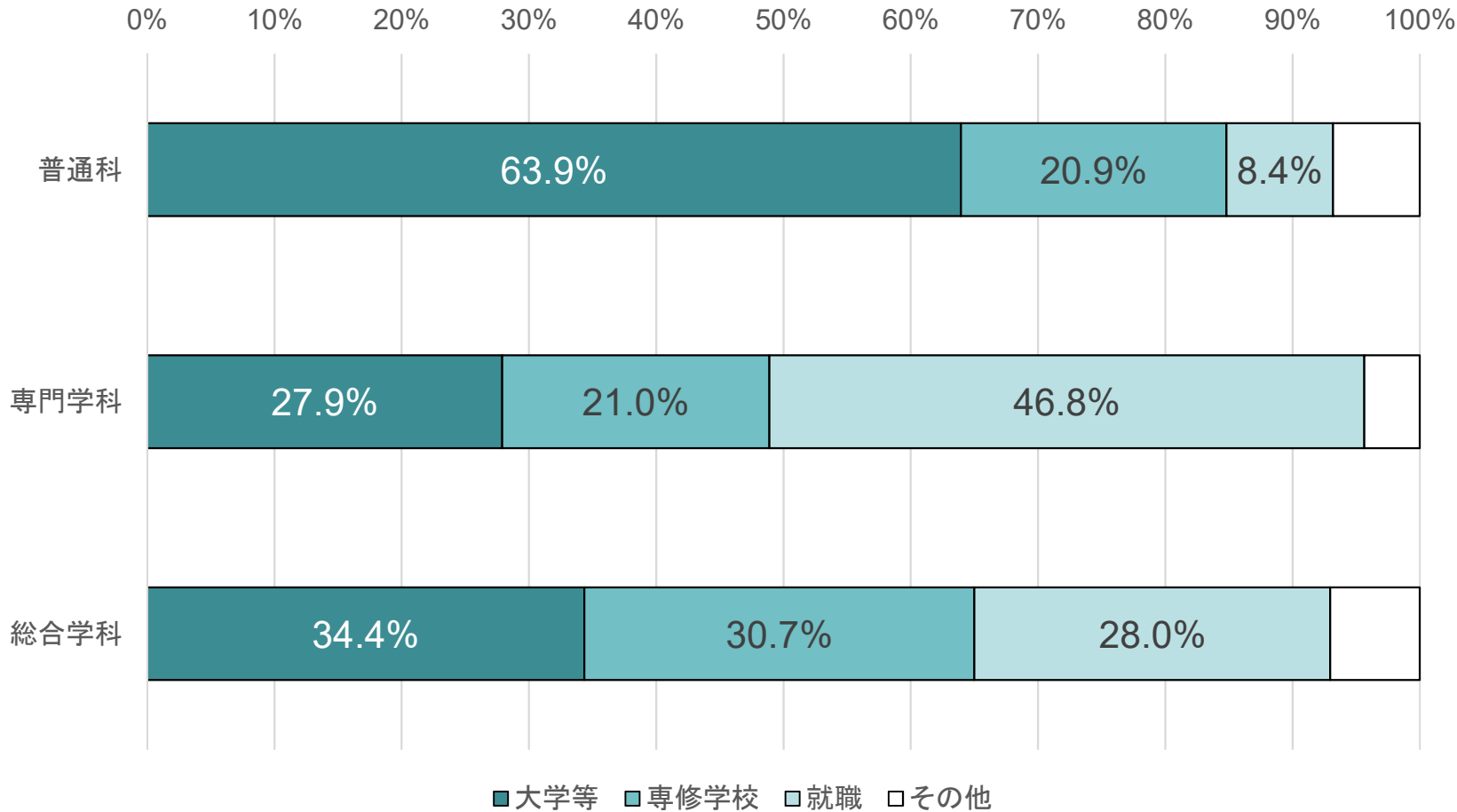
※全日制・定時制課程の生徒数の割合。

※総合学科は平成6年度より制度化。

（出典）文部科学省「学校基本統計」

高校生の卒業後の進路状況（普通科・専門学科・総合学科別）

- 普通科の卒業後の進路は、大学等への進学が64%で最多。
- 専門学科の卒業後の進路は、就職が47%で最多。
- 総合学科の卒業後の進路は、大学等、専修学校、就職が約3割とほぼ同数。



(出典) 文部科学省 令和元年度「学校基本統計」

専門高校における「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」の取組

実践的技術・技能・経営力を身に付けた地域創生を担う人材の育成

秋田県立大曲農業高等学校

平成28～30年度
指定



植物工場の視察

- ・地域の伝統野菜等を使った商品開発を行うなど、地域農業を理解し、地域資源や人的資源を利活用する力を身に付けさせる。
- ・立命館大学・信州大学等と共同して、地域資源である田沢湖の環境保全や資源活用に関するプロジェクト活動を行うなど、地域環境の保護活動や栽培に関する高度な知識・最先端の技術に触れ、地域の多様な資源を活用する力を身に付けさせる。
- ・大仙市農業研修生等との相互交流や食の6次産業化に関する研修、農業経営セミナーへの参加等を通して、地域課題に主体的・協働的に取り組む力を身に付けさせる。
- ・先進農家等での長期インターンシップを実施するなど、地域農業の発展に貢献できる経営の多角化や高度化の方法を身に付けさせる。

船づくりをモデルケースとした地学地就による次世代スペシャリスト育成プロジェクト

愛媛県立今治工業高等学校

平成28～30年度
指定



地元造船会社の熟練技能者等による実技指導

- ・地元造船会社等の熟練技能者等を招へいして行う技能実習やディスカッションなど、「匠の技」や「職人魂」に直接触れる授業等を実施し、確かな知識・実践的な技能とともに規範意識・倫理観を身に付けさせる。
- ・地元造船会社、愛媛大学や広島大学、国立研究開発法人海上技術安全研究所の協力を得て、世界最高水準にある日本の造船技術に、高校生が直接触れる実験・課題演習などを実施し、専門分野の高度な技術を身に付けさせる。
- ・学校設定科目「船舶構造」「船舶計算」「船舶工作」において、海事産業探究活動や大学連携講座を実施し、高度な技術や発展的な内容について学習する。
- ・地元造船会社の協力の下、船舶の建造工程に関するビジュアル教材を作成。
- ・地元造船会社等において、造船技術探究フィールドワークやインターンシップ及び長期就業体験を実施。

企業の社会的責任(CSR)を全うするプロフェッショナル人材、21世紀型近江商人の育成

滋賀県立八幡商業高等学校

平成29～31年度
指定



行商販売実習

- ・行商を中心とした販売実習や仕入れ実習、八商マルシェの運営などを通じて、近江商人の「三方よし」の精神、商業道徳とリーダーシップ、社会に貢献するための高い志を育成。
- ・経営者による特別講座、ビジネスプランコンテストへの挑戦、商品の企画・開発などを通じて、課題を把握し解決方法を考える能力やICT・科学的データ分析に基づき新たな分野を開拓する起業家精神を育成。
- ・海外インターンシップなどを通じて、多様な文化と価値観を身に付け、グローバルな視野でビジネス活動を実践するビジネスリーダーを育成。
- ・観光基礎講座などを通じて、地域の価値を理解し、地域経済の活性化や地域創生に向けて活躍することができる力を育成。
- ・高度資格取得や高大連携講座などを通じて、簿記・会計・ICT・法律等の分野で高度な専門知識を備えたビジネスリーダーを育成。

地域社会をリードし、海洋立国日本の将来を支えるグローバル人材の育成

愛知県立三谷水産高等学校

平成28～32年度
指定



- ・産学官連携によるクローアワビの完全閉鎖式陸上養殖技術の研究や、水質リモートセンシングの研究、小型カガミガイを活用した魚醤を開発海洋調査用水中ロボットの活用に関する研究などの先進的研究活動を通じて、課題を探究し解決する力や自ら考え行動する力、創造性等を身に付けた将来のスペシャリストを育成。
- ・地域の特色ある水産物を活用した魚醤などの商品の開発やブランド化・六次産業化に向けた取組、大学等の研究機関と連携したウナギの完全養殖化に関する基礎研究等を通じて、実践力やコミュニケーション力を身に付けた地域産業を担う人材を育成。
- ・水産・海洋関連の地域企業における長期インターンシップや英語科等と連携した授業、ニュージーランドの高校生との交流等を通じて、人間性豊かなグローバル人材を育成。

総合学科の制度化経緯

平成3（1991）年 中教審答申「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について」

- 技術革新の進展等に伴い産業・就業構造が大きく変化している時代にあつては、生徒が進路決定を先送りしており、また、こうした変化の下では、従来の特定の職業のための職業教育だけではなく、あらゆる職業に共通の実際的な知識・技術を習得させることが求められている。
- このような現状を踏まえ、普通科と職業学科とを総合するような新たな学科を設置することが 適当と考えられる。

平成5（1993）年「高等学校教育の改革の推進に関する会議」第四次報告

<総合学科における教育の特色>

- 将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視すること。
- 生徒の個性を生かした主体的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体験させる学習を可能にすること。

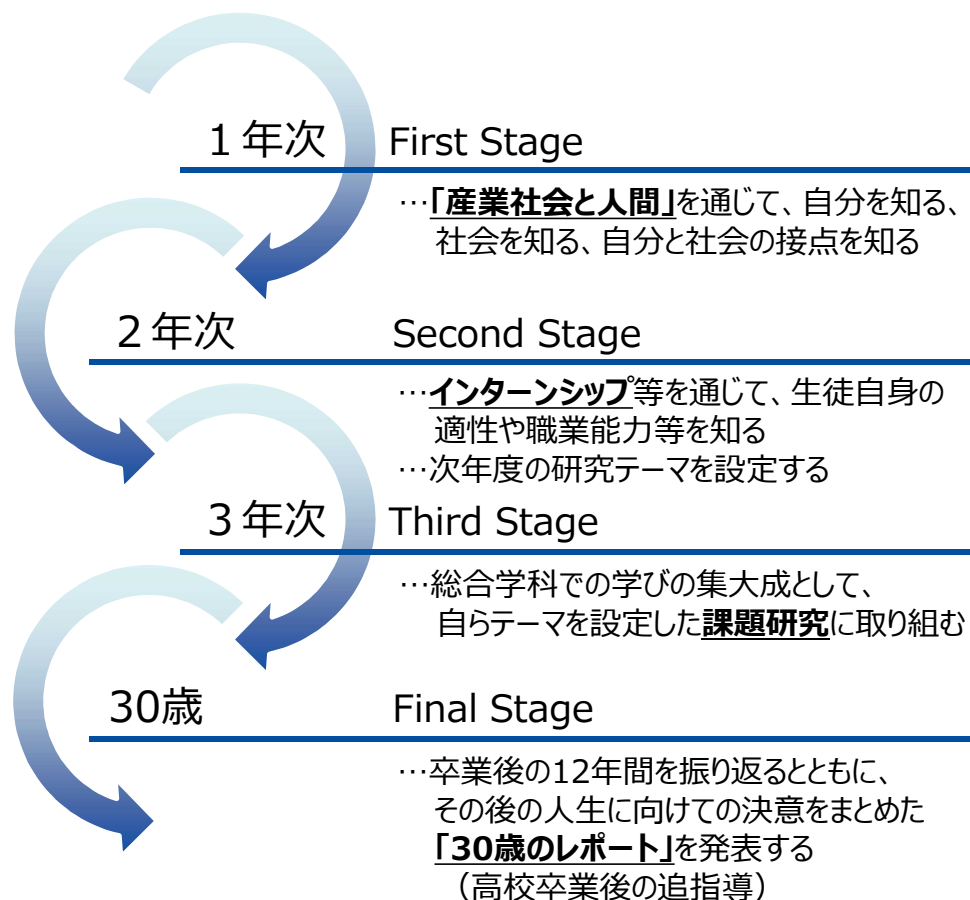
<総合学科を設置する意義>

- 単位制や、学校間連携、学校外の学修成果の単位認定等に係る諸制度を大胆に活用するなど、「思い切った教育課程の弾力化を容易にすることが期待できる」
- 多様な入学者選抜や、履修科目の自由な選択を通して、能力・適性等の多面的な評価が行われることにより、「いわゆる偏差値を尺度とする高等学校間の序列意識を打破する契機となることが期待できる」
- 様々な分野の基礎・基本の学習に適切な科目が多数開設され、「地域の人々の要望を踏まえつつ生涯学習機関としての役割を果たすことが期待できる」

総合学科における取組事例 <大分県立日田三隈高等学校>

- 平成8年に普通科、商業科、家政科の3学科を統合して**単位制・総合学科**として開設した高等学校。
- 高校在学中のみならず、**30歳までを見通したキャリア教育**を軸にしながら、進路志望や基礎学力の定着度が多様な生徒に対して、早期に勤労観・職業観を育成するため、総合学科の特性を生かして、生徒が主体的に学び、協働しながら課題を解決する力を育成するための教育活動を展開。

組織的・系統的なキャリア教育実践 “Mikuma PAS System”



① 総合学科の特色を生かした多様な教育課程

- ・生徒の多種多様な進路希望に柔軟に対応し、また生徒自身が授業を通して様々なことに興味・関心を抱き、進路希望を決定できるようにするため、全125科目が開設。
- ・科目選択の指針として、人文社会系列、自然科学系列、ビジネス情報系列、ビジネス会計系列、生活科学系列の5系列に整理。

② 3年間を見通した「総合的な学習の時間」

- ・1年次は、「産業社会と人間」において進路学習や科目選択、ライフプランの作成に取り組む（ライフプランは毎年度の学習を踏まえて見直し）。
- ・2年次は、事業所の選定から体験内容の交渉、結果発表会の資料作りまでを生徒自ら行う「セルフプロデュース形式」のインターンシップに取り組むとともに、3年次に取り組む研究テーマを設定する。
- ・3年次は、約10名規模のゼミ形式を取り、大学教授等から研究の方法についての専門的な指導を受けながら、フィールドワーク等も行いながら、課題の解決に向けた研究を行う。
- ・国語表現（国語）においてインターンシップに係る書類作成方法を、情報処理（商業）においてプレゼンテーション方法を学ぶなど、総合的な学習の時間と各教科とが連携した教育活動を実施。

③ 卒業生と連携した教育活動

- ・「30歳のレポート」発表会をはじめ、授業の中で卒業生を講師として招くなど、卒業生の声を聴く機会を作ることで、総合学科で学ぶ意義や進路選択について学ぶ仕組みを設けている。

総合学科における取組事例 <三重県立飯南高等学校>

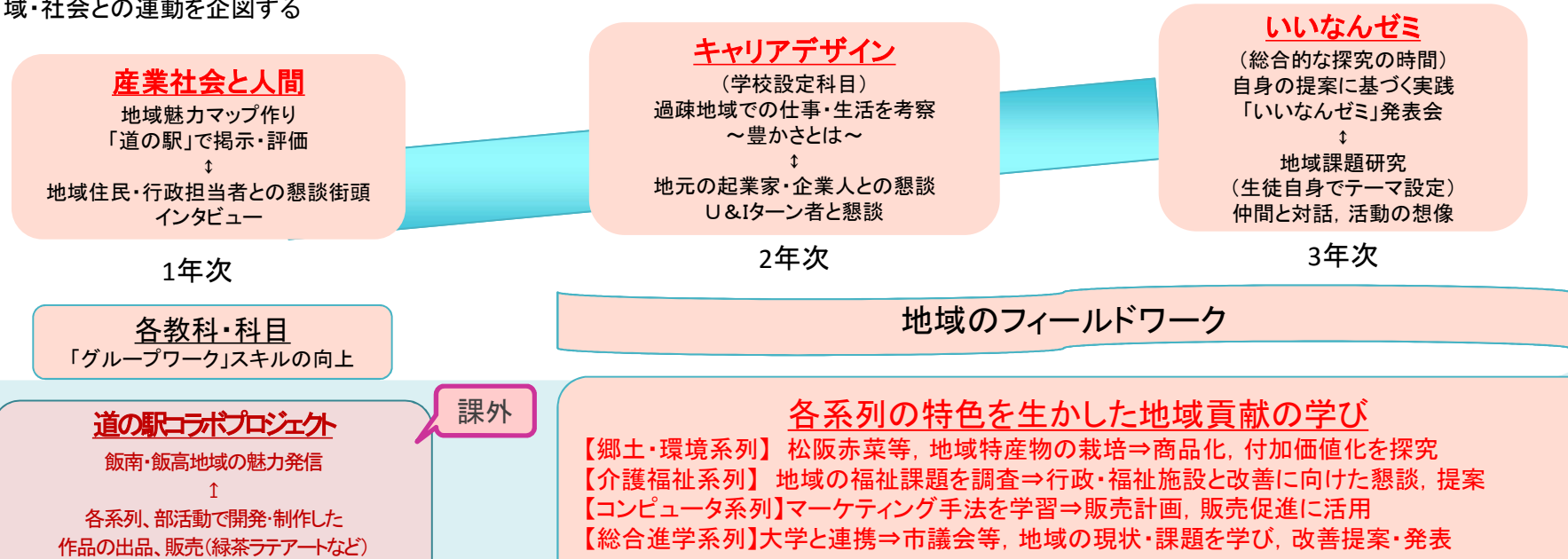
構想:「チームいいなん」の挑戦 ～未来を切り拓く“地域に根ざした人材”育成～

目的・目標

- 地域を学びの場とした地域課題解決型のキャリア教育の実践を通じて、自ら考え挑戦し、多様な価値観を持つ人々と対話・協働しながら、地域への愛着を持って地域に貢献し、地域の未来を切り拓くことができる、地域に根ざした人材を育成することを目的とする。
- その目的と人材に必要な4つの資質・能力(対話力・追究力・創造力・発信力)を育成していくことを目標とする。

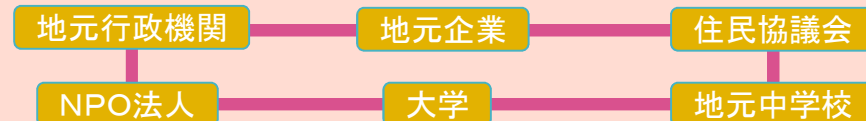
地域との協働による探究的な学びを実現する学習の概要

- ・総合学科の柱の3科目(「産業社会と人間」「キャリアデザイン」「いいなんゼミ」)を再構築し、3年間の学びの連動を強化して地域課題解決型キャリア教育を充実
- ・4系列の特色を生かした地域貢献のための学習活動、各教科・科目での地域題材・データを扱った教科横断的な学習の実施により、日常的な学びと地域・社会との連動を企図する



地域との協働体制

・飯南高校、松阪市、地元中学校、地元企業、地元NPO法人、三重大学、三重県教育委員会で「地域人材育成コンソーシアム・いいなん」を構成



(出典) 2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業「実施体制の概要」「研究開発の概要」等をもとに文部科学省作成

総合学科における取組事例

<筑波大学附属坂戸高等学校①>

3年間での育成を目指す資質・能力

1年次

どのように学び、生きていかか考える

- ・必修科目を通じた基礎的な力の定着
- ・海外校外学習等を通じた外国語学習に対する意欲と実践的な運用力の向上
- ・「産業社会と人間」などの科目を通じて自分自身の進路・将来を考え、今何が必要か判断する力の養成

2年次

自分で課題を見つけ、解決する

- ・必修科目における基礎力と応用力の向上
- ・多くの国際交流の機会を通じた、グローバルリーダーとしての資質・能力の向上
- ・選択科目において当該分野に対する興味・関心を深化させるとともに、社会とのつながりを意識した学びを通じたシティズンシップの養成

3年次

自ら学べる人間に

- ・進路実現に必要な総合的な学力の完成
- ・卒業研究を通じて、自ら学ぶことの楽しさの理解醸成と将来にわたって学び続ける姿勢の養成
- ・地球的視野に立って行動できる態度の育成

教育課程

最大履修可能教科・科目数:87~88単位
卒業に必要な単位数:78単位

1年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
	特別活動	産業社会と人間	必修科目 (27)																													
2年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
	特別活動	総合的な学習の時間	必修科目 (15)													科目群選択科目 (4)	一般選択科目 (10)															
3年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
	特別活動	卒業研究	必修科目 (6)						科目群選択科目 (5)	一般選択科目 (16)																						

【必修科目】

各学年で必ず履修する科目

【科目群選択科目】

2年次に、「生物資源・環境科学」、「工学システム・情報科学」、「生活・人間科学」、「人文社会・コミュニケーション」の4つの科目群の中からいずれかに所属。科目群により指定された選択科目

【一般選択科目】

自身の興味・関心、進路等に応じて自由に選択履修することができる科目

生徒が自らの未来を描き、自身の進路実現に向けた科目選択を行うとともに、3年間一貫したキャリア教育を実施

キャリア教育充実のための3年間の一貫したカリキュラムデザイン

【1年次】「産業社会と人間」(必履修科目)

…「身に付けさせたい力」に応じて行われる様々な教育活動内容

キャリア設計能力
(学習進路計画・習慣形成等)

情報活用能力
(情報収集応用・社会理解等)

意思決定能力
(目標設定・自己調整評価等)

人間関係形成能力
(自己他己理解・表現力・協働性等)

・コミュニケーションキャンプ
→入学翌日から長野県黒姫高原で3泊4日。総合学科における学習のガイダンス的役割

・社会人講話、職場訪問
→社会の第一線で活躍している者として保護者の講話を聞くとともに、夏季休暇中に職場訪問実施

・菜園づくり・収穫祭
→作物の生育調査を通じて、学校生活の自分の変化と植物の生長を照らし合わせて、これからの学校生活に向けて自己を振り返る

・筑波大学訪問
→大学教員による講話、模擬授業体験を通じて、「大学での学びとは何か」や自己の進路について考える。

・福祉講話、特別支援交流会

・ライフプラン作成・発表会・総合学習
→1年間のまとめ。これまでの活動を通じて、自分がどのような生き方をしたいか、人生のPDCA、特にPをどのようにデザインするかについて、プランをまとめ、発表し、2年次以降の学びに生かす。

(その他)

- ・年に4回のヒアリングを実施し、活動内容の振り返りや生徒の表現力・思考力の向上、生徒の評価等、「産業社会と人間」の学習内容の整理や学習成果の自覚につなげる。
- ・海外校外学習を3月に実施。ホームステイ、学校交流を行いつつ、現地で課題研究活動に取り組む。

出典：「筑波大学附属坂戸高等学校 研究紀要第56集」(2019 筑波大学附属坂戸高等学校)

総合学科における取組事例 <筑波大学附属坂戸高等学校③>

キャリア教育充実のための3年間の一貫したカリキュラムデザイン

【2年次】「T-GAP (Tsukusaka Global Programme)」(総合的な学習の時間)

…社会課題を発見・設定し、それに対するアクションプランをチームで作成、実施

- ・pre T-GAP: 1年次の3月で行った海外校外学習の事後学習。
- ・アクション I : チームでの課題発見・設定、それに対するアクションプランの策定に向けて必要となる知識や情報を得るなど、アドバイスを受けたり、共に活動することを目的に、該当する課題に取り組む外部団体 (NPO、企業、地方自治体等) を探し、夏季期間中に訪問、既存の活に参加。
- ・アクション II : アクション I の活動を踏まえ、生徒が主体となり、チームで社会課題を洗い出し、その課題の解決に向けて実現可能な活動を考え、実施。
- ・プレ卒業研究 : T-GAPの活動に並行する形で、3年次の卒業研究に向け、問いの設定や研究計画の作成に取り組む。

【3年次】「卒業研究」(必履修科目)

…1年次及び2年次の取組を踏まえつつ、個人による研究活動に取り組む。ゼミ形式での運営で、論文作成、個別面談、プレゼンテーションの実施。

(論文事例)

- ・総合学科における生徒の自己理解が進路選択に与える影響
- ・ベトナム人技能実習生の労働問題の実態—日越友好関係に向けて—

